



# 南町小だより

つよく かしこく あたたかく

平成28年6月30日

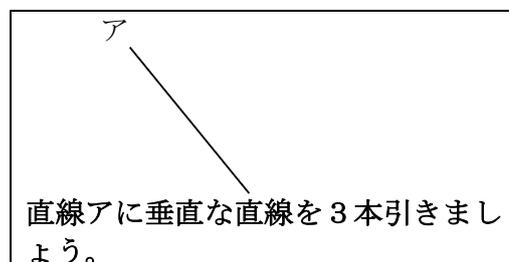
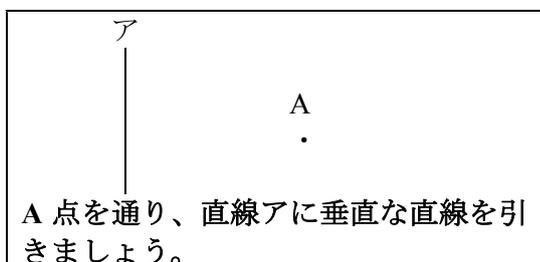
校長 福田 俊彦

## 「わかる」「できる」授業の場面

校長 福田 俊彦

6月20日から、今年度の水泳が始まりました。子供は、昨年度の水泳の学習を振り返り、「〇級になりたい。」「正しい泳ぎ方ができるようになりたい。」ことを目標としてみちます。そして、校長からは、安全な水泳学習についての話をしました。「水にかかわる事故から自分の命を守る」ためには、先生の話をしっかり聞き、行動できること。自分勝手な判断のもと、自分だけの考えのもとで行動しないこと。このことは、長い夏休み、水の事故から自分を守ることにつながることとして話しました。

さて、次の文章をお読みください。「今日は、問題がすぐにできたし、覚えたのでよかったです。それに以外と簡単だったのでよかったです。垂直の学習が楽しくなりました。どんどん進めていきたいです。」「3本ずつ引くところが難しかったです。斜めになっても、やり方がほとんど変わらないということが分かりました。」「やったことを忘れないようにしたいです。また、算数がもっと楽しくなりました。」これらは、子供が算数の授業について振り返りノートに書いた言葉です。4年生で学ぶ「三角定規を2枚使って、垂直な直線を引こう」の学習です。それぞれの子供には、難しいことも、簡単なこともあったことが分かります。その中で、学習を通して、身に付けたことやこれからの思いが記されていることに心を動かされました。問題は以下の内容です。



このような振り返りの言葉が生まれたことには背景があります。この算数の授業では、まず先生が今日の学習のねらいと内容を分かりやすく黒板に書きました。そして、2枚の三角定規をどのように使って垂直な直線を書いていくのか、5段階に分けて説明し、一つ一つの場面を確認しつつ学習を進めました。子供の戸惑いは、その場で解決できるようにしたことは、子供の納得につながりました。そして、自分一人の力で垂直な直線を引く場面となりました。このように、子供が垂直の意味を理解し、三角定規の特性を利用し、垂直な直線を書き引く丁寧な学習への取り組みが、上記の振り返りの言葉を生みました。一昨年でしょうか。道徳の授業（2年生）の終わりに、ある子供が発した言葉を学校だよりで届けさせていただきました。「もう終わりなの。」子供の言葉から、その授業に向かっていた子供の気持ちが伺われます。

南町小学校では、「わかる」「できる」授業が一つでも多く、各教室で行われることをめざしています。そして、子供が次の授業に目標をもって向かえるよう振り返りの場面を大切にしていきます。

保護者、地域の皆様におかれましては、授業をご参観いただき、このような子供たちの姿に触れていただけますようお願いをいたします。